

英語科学習指導案（細案）

指導教諭

実習生

1.日時（Date & Time） 令和 6 年 6 月 14 日（金）1 限（9 時 50 分～10 時 40 分）

2.場所

3.学年・組

4.単元・教科書 Unit 3 （NEW HORIZON 東京書籍）

5.単元目標

A 知識・技能	B 思考力・判断力・表現力	C 主体的に学習に取り組む姿勢
<p>① 〈It is…for+人など+to〉、〈want[ask][tell]+人など+to 不定詞〉、〈let[help]+人など+動詞の原形〉を用いた文の形・意味・用法を理解できるようにする。</p> <p>② 〈It is…for+人など+to〉、〈want[ask][tell]+人など+to 不定詞〉、〈let[help]+人など+動詞の原形〉を使った英文を読んだり聞いたりして理解することができるようにする。</p>	<p>① 〈It is…for+人など+to〉を用いて、自分の考えを表現することができるようにする。</p> <p>② 〈want[ask][tell]+人など+to 不定詞〉、〈let[help]+人など+動詞の原形〉の理解をもとに、人にしてもらいたいことを伝えるために自分の考えを話したり書いたりすることができるようにする。</p>	<p>① 〈It is…for+人など+to〉を用いて、自分の考えを表現しようとしている。</p> <p>② 〈want[ask][tell]+人など+to 不定詞〉、〈let[help]+人など+動詞の原形〉の理解をもとに、人にしてもらいたいことを伝えるために自分の考えを話したり書いたりしようとしている。</p>

6. 生徒観

明るく元気な生徒が多く、ペアワークでの活動において他者と協力して学習を進めることができおり、意欲的に活動に取り組む生徒が多い。しかし、その一方で全体に問いかけたときに、答える生徒は少ない。英語の技能に関しては、4 技能のいずれも平均を上回る生徒が過半数である。教科書の内容に関しては理解して、しっかり説明することができる段階に達している。

7. 教材観

本単元では、世界の絶滅の恐れのある動物（絶滅危惧種）について扱っている。本文では国際自然保護連合（IUCN）が絶滅危惧種の動物についてまとめたレッドリストから、多くの動物が絶滅の危機に瀕していることを学ぶ。特に、日本のトキ、コンゴ民主共和国のゴリラについて学ぶことで、何が原因となり絶滅に瀕しているのかについて理解を深めさせることができる。動物たちの現状やその背景について理解するだけではなく、自分たちにできることはないか考えることができる教材である。

デジタル教科書のビデオ教材は、文法説明が簡潔かつ練習問題や例文も多いため、内容が理解しやすく、楽しく学ぶことができる。言語材料としては〈It is … + (for 人など) + to〉の文、〈want + (人など) + to〉や〈let [help] + (人など) + 動詞の原形〉の文、〈let [help] + 人など + 動詞の原形〉の文のワークシートを活用することで自分の考えを述べたり、相手にしてほしいことなどについて伝えたりする表現力が身に付くと考えられる。

8. 指導観

この単元では、〈It is … for + 人など + to〉、〈want[ask][tell] + 人など + to 不定詞〉、〈let[help] + 人など + 動詞の原形〉の表現を導入する。文法の導入においては、生徒が表現する活動を多く取り入れることで、生徒が文法構造に気づき、中間指導によって文法についての理解を深めるよう留意する。映画やアニメーションのセリフを用いて、実際の表現に触れることで表現の使い方を捉えられるよう工夫する。指導にあたり、全体に問いかける活動ではなく、ペアワークの時間を多く設定することで、生徒同士では協働的に学び合う時間を確保する。授業支援ソフト「オクリンク」を活用することで、生徒は自分の考えや意見を文章として打ち込むことができ、共有や提出が容易にできる。そのため協働的に学び合い、考えを広げることができる。また、身近な話題を用いて表現に触れさせることで、間違いを恐れずに発話したり文を書いたりできるようにしたい。単元の最後には自分の意見や考えを書くべき事柄について〈It is … for + 人など + to〉、〈want[ask][tell] + 人など + to 不定詞〉、〈let[help] + 人など + 動詞の原形〉の表現を用いて英文を書き、グループで意見を発表させることができるまで習熟させることを目指す。

9. 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考力・判断力・表現力	C 主体的に学習に取り組む姿勢
<p>① 〈It is … for + 人など + to〉、〈want[ask][tell] + 人など + to 不定詞〉、〈let[help] + 人など + 動詞の原形〉を用いた文の形・意味・用法を理解できる。</p> <p>② 〈It is … for + 人など + to〉、〈want[ask][tell] + 人など + to 不定詞〉、〈let[help] + 人など + 動詞の原形〉を使った英文</p>	<p>① 〈It is … for + 人など + to〉を用いて、自分の考えを表現することができる。</p> <p>② 〈want[ask][tell] + 人など + to 不定詞〉、〈let[help] + 人など + 動詞の原形〉の理解をもとに、人にしてもらいたいことを伝えるために自分の考えを話したり書いたりすることができる。</p>	<p>① 〈It is … for + 人など + to〉を用いて、自分の考えを表現しようとしている。</p> <p>② 〈want[ask][tell] + 人など + to 不定詞〉、〈let[help] + 人など + 動詞の原形〉の理解をもとに、人にしてもらいたいことを伝えるために自分の考えを話したり書いたりしようとしている。</p>

を読んだり聞いたりして理解 することができる。		
----------------------------	--	--

10. 本時の指導と評価の計画（全7時間）

時	生徒が学習する内容	指導のポイント	主な評価規準と方法
第1時 Unit 3 Scene1 文法	Unit 3 Scene1 文法 ・文法のビデオを活用し 〈It is … (for+ (人など)) +to〉の文の形・意味・用法を学ぶ。 ・Small Practice で並び替えの練習問題を解く。 ・Activity を通して考えを表現する。	・〈It is … (for+ (人など)) +to〉を使って考えた文章をオクリンクで共有する。 ・〈It is … (for+ (人など)) +to〉が英作文や会話表現で有用であることを教示する。	A-②（ワークシートの記述） B-①（ペアワークの観察） C-①（ペアワークの活動・オクリンクを通して提出した文章）
第2時	Unit 3 Scene1 本文 ・新出単語を確認する。 ・リスニング活動（本文）をする。 ・1回目は本文を見せずに、ビデオを見る。 ・ペアで何が聞こえてきたのかを話し合う。 ・Comprehension Question を解く。 ・本文内容の重要ポイントを聞く。 ・音読活動を行うまえに音声と同時に読む練習を行う。 ・音読活動をする。 ・本文確認と発音を再度確認したのちに音読活動を行う。	・リスニング活動の際に、いきなり本文を見せるのではなく、まず映像を見てどのような話なのか聞かせる。 ・音読活動の際に、文章を読む機会を多くして、生徒なりに内容を解釈できるように、速読教材を使うように促す。 ・机間指導を行い、つまづいている生徒に積極的に声をかける。	A-①（リスニング活動） A-②（ワークシートの記述・音読活動の観察）
第3時	Unit 3 Scene2 文法 ・文法のビデオを活用し	本時の細案参照	A-②（ワークシートの記述） B-②（ペアワークの観察）

	<p>〈want[ask][tell]+人など+to 不定詞〉の文の形・意味・用法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Small Practice で並び替えの練習問題を解く。 ・ Activity を通して考えを表現する。 		C-② (ペアワークの活動・オクリンクを通して提出した文章)
第 4 時	<p>Unit 3 Scene 2 本文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新出単語を確認する。 ・ リスニング活動 (本文) をする。 ・ 1 回目は本文を見せずに、ビデオを見る。 ・ ペアで何が聞こえてきたのかを話し合う。 ・ Comprehension Question を解く。 ・ 本文内容の重要ポイントを聞く。 ・ 音読活動を行うまえに音声と同時に読む練習を行う。 ・ 音読活動をする。 ・ 本文確認と発音を再度確認したのちに音読活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リスニング活動の際に、いきなり本文を見せるのではなく、まず映像を見てどのような話なのか聞かせる。 ・ 音読活動の際に、文章を読む機会を多くして、生徒なりに内容を解釈できるように、速読教材を使うように促す。 ・ 机間指導を行い、つまづいている生徒に積極的に声をかける。 	<p>A-① (リスニング活動)</p> <p>A-② (ワークシートの記述・音読活動の観察)</p>
第 5 時	<p>Unit3 Read and Think 1 文法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文法のビデオを活用し〈let[help]+人など+動詞の原形〉の文の形・意味・用法を学ぶ。 ・ Small Practice で並び替えの練習問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使役動詞が実際に用いられている文章をリスニングで使う際に、1 回目はヒントなし、2 回目はヒントを与えて、3 回目はセリフを見せて聞かすことで生徒の「できた」という気持ちを引き出せるようにする。 	<p>A-② (ワークシートの記述)</p> <p>B-② (ペアワークの観察)</p> <p>C-② (ペアワークの活動・オクリンクを通して提出した文章)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・使役動詞が使われているアニメーションをみて、実際の表現に触れる。 		
第 6 時	<p>Unit 3 Read and Think 1 本文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語を確認する。 ・リスニング活動（本文）をする。 ・1回目は本文を見せずに、ビデオを見る。 ・ペアで何が聞こえてきたのかを話し合う。 ・Comprehension Question を解く。 ・本文内容の重要ポイントを聞く。 ・音読活動を行うまえに音声と同時に読む練習を行う。 ・音読活動をする。 ・本文確認と発音を再度確認したのちに音読活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング活動の際に、いきなり本文を見せるのではなく、まず映像を見てどのような話なのか聞かせる。 ・音読活動の際に、文章を読む機会を多くして、生徒なりに内容を解釈できるように、速読教材を使うように促す。 ・机間指導を行い、つまづいている生徒に積極的に声をかける。 	<p>A-①（リスニング活動） A-②（ワークシートの記述・音読活動の観察）</p>
第 7 時	<p>Unit 3 Read and Think 2 本文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語を確認する。 ・リスニング活動（本文）をする。 ・1回目は本文を見せずに、ビデオを見る。 ・ペアで何が聞こえてきたのかを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング活動の際に、いきなり本文を見せるのではなく、まず映像を見てどのような話なのか聞かせる。 ・音読活動の際に、文章を読む機会を多くして、生徒なりに内容を解釈できるよ 	<p>A-①（リスニング活動） A-②（ワークシートの記述・音読活動の観察）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ Comprehension Question を解く。 ・ 本文内容の重要ポイントを聞く。 ・ 音読活動を行うまえに音声と同時に読む練習を行う。 ・ 音読活動をする。 ・ 本文確認と発音を再度確認したのちに音読活動を行う。 	<p>うに、速読教材を使うように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導を行い、つまづいている生徒に積極的に声をかける。 	
--	---	--	--

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・ 〈want[ask][tell]+人など+to 不定詞〉の構造と意味を理解することができる。
- ・ 〈want[ask][tell]+人など+to 不定詞〉の知識を活用して、吹き出しに適切なセリフを考え、表現することができる。

(2) 本時の評価規準

A 知識・技能	B 思考力・判断力・表現力	C 主体的に学習に取り組む姿勢
・ 〈want[ask][tell]+人など+to 不定詞〉を形式の面で正確に使うことができる。	・ 〈want[ask][tell]+人など+to 不定詞〉、〈let[help]+人など+動詞の原形〉の理解をもとに、人にしてもらいたいことを伝えるために自分の考えを話したり書いたりすることができる。	・ 〈want[ask][tell]+人など+to 不定詞〉を用いて自分の考えを表現しようとしている。

(3) 本時の学習過程

時間	生徒の学習活動	指導内容（○）及び指導上の留意点（●）	評価規準及び評価方法
1分	A: 本時のスケジュールの確認 1. 本時のスケジュールの確認	● スケジュールの確認を行う。	

7分	<p>B. Warming-up (OPINIONS)</p> <p>1. 意見を伝える活動を行う。 (3～5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I think, I don't think, I agree with, I don't agree with を用いて、“Should junior high school students learn English?” についてどのような考えをもっているのか意見交換をペアワークを用いて行う。 ・ じゃんけんで勝った生徒から意見を言い、そのあとに、負けた生徒が意見を言う。 <p>2. 意見を発表する (2分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意見を I think, I don't think, I agree with, I don't agree with を用いてクラスメートの前で発表する。 ・ 答え方の例を聞く。 	<p>○“Should junior high school students learn English?” についてどのような考えをもっているのか意見交換をする際に、質問の内容をわかるように説明する。</p> <p>●机間巡視を行い、質問の理解度を確認する。</p> <p>○意見交換する順番をじゃんけんで行うように指示する。(勝った人から話して、次に負けた人が話す順番で行うように指示する。)</p> <p>●ペアを確認する。欠席者等でペアの生徒がいない場合もあるので、あらかじめ移動してもらうなど配慮する。</p> <p>●机間指導を行い、質問の理解度を確認する。</p> <p>●机間指導を行い、難しく感じている生徒にはヒントを与える。</p> <p>●発表した生徒の文章に誤りがあった場合、リキャストすることで間違いを訂正する。</p> <p>○生徒の発表の後に例を提示する。 (I think they should learn English because more and more foreign people come to Japan. I don't think they should learn English because many young people don't know how to use Japanese correctly. They have to use perfect Japanese first.)</p> <p>●more and more は「ますます多くの」という表現であることを教示する。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>生徒の 応答 活動の 観察</p> <p>【思・判・表】</p> <p>生徒の 応答 活動の 観察</p>
----	---	--	---

<p>1 2 分</p>	<p>C. New Grammar 新出文法</p> <p>1.新しい表現〈want[ask][tell]+人など+to 不定詞〉の構造と意味をビデオ教材を活用し、理解する。</p> <p>2.ビデオ教材の中に、例題が2つ出てくるので、その問題をペアで話し合う。</p> <p>3. ビデオ教材の後にプリントの穴埋めを行う。</p> <p>4. ビデオ教材に〈ask+人など+to 不定詞〉、〈tell+人など+to 不定詞〉がないため、説明を聞く。</p> <p>5.ビデオ教材の後にプリントの穴埋めを行う。</p>	<p>○ビデオを注意深く見るように指示をする。</p> <p>○例題がビデオで出てきた際に、生徒に考えるように指示する。</p> <p>○ビデオの内容を復習しながら、プリントの穴埋めを指示する。</p> <p>○同じような使い方をする ask, tell をセットで説明する。</p> <p>○以上の説明の後、Small Practiceに取り組む前に質問がないかを確認する。</p>	<p>【知・技】</p> <p>活動の観察</p> <p>【知・技】</p>
<p>1 0 分</p>	<p>D. Practice 活動</p> <p>・あらかじめ配布しているプリントの Small Practice（英語を日本語に翻訳するアクティビティ）を行う。</p> <p>・じゃんけんに勝った生徒が①～⑤の文章を英語で読み、じゃんけんに負けた生徒が①～⑤の日本語訳をする。</p> <p>・教員とともに翻訳の確認を行う。</p> <p>・Practice を行う。</p> <p>・あらかじめ配布しているプリントの Practice（並び替えて英文を完成させる活動）を行う。</p>	<p>○意見交換する順番をじゃんけんで行うように指示する。（勝った人から話して、次に負けた人が話す順番で行うように指示する。）</p> <p>●書く必要はなく、話すアクティビティであると指示する。</p> <p>●生徒の理解度に応じて、中間指導を行う。中間指導については、言語材料の使い方に関する指導を中心に行う。</p> <p>○ホワイトボードに映し出しながら、翻訳の確認を行う。</p> <p>○個人で問題を解くように指示する。</p> <p>●机間指導を行い、つまづいている生徒に積極的に声をかける。</p>	<p>【知・技】</p> <p>活動の観察</p> <p>【知・技】</p> <p>活動の観察</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントに書き込み、正しく並べ替えて英文を完成する。 ・教員とともに答え合わせを行う。 	<p>○ホワイトボードに映し出しながら答えの確認を指示する。</p>	
20分	<p>E. Activity (セリフを考えよう)</p> <p>1. パワーポイントの吹き出しに適切なセリフを考え、ペアで話し合い、オクリンクを使い打ち込み、送信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、ストーリー形式になっているスライドを見て、吹き出しにどのようなセリフが当てはまるかペアと考える。 ・ペアを交代して、2問目を解く。(毎問ごとにペアを変える) ・ペアワーク活動後に、オクリンクを活用して、セリフを打ち込む。 ・考えたセリフをオクリンクを通し提出し、クラス全体で共有する。 ・教員のセリフ例を見る。 	<p>○スライドの会話内容を読み上げ、空欄にどのようなセリフが入るか考えるように指示する。</p> <p>○やることを①②とホワイトボードに書いて指示する。①は talk と指示する。②は type and send であるが、すぐには指示しない。</p> <p>●〈want[ask][tell]+人など+to 不定詞〉の表現を使うことにこだわらず、やり取りとして繋がっていれば良いと指示する。</p> <p>●問題が4問あるので、繰り返し活動を行う。机間指導を行い、つまづいている生徒に積極的に声をかける。</p> <p>○②は type and send を指示する。</p> <p>●セリフに正解はなく、会話として繋がっていることが大切であると教示する</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>生徒の 応答 活動の 観察</p> <p>【主】 活動の 観察</p>



《 True or False 》

- | | | |
|---|----------------------------|----------------------------|
| 1. The information about the Red List was new to Kaito. | T <input type="checkbox"/> | F <input type="checkbox"/> |
| 2. There are no endangered animals or birds in Japan. | T <input type="checkbox"/> | F <input type="checkbox"/> |
| 3. Meg wants everyone to know her favorite animals. | T <input type="checkbox"/> | F <input type="checkbox"/> |

《 Q&A 》 英語で答えてみよう！どうしても難しければ、日本語でも OK。

1. What information does the Red List give?

2. What will Meg and Kaito do?

3. What does Meg think of Kaito's idea?

Grammar

新しい表現「want + 人 + to 不定詞」を理解しよう。

- ① 復習！ I want to sleep more.

「want to 動詞の原形」で「～したい」という意味を表すことができる。

- ② 今回は、少し変わった語順で使う！

人に…してほしい

「want + 人 + to 不定詞」で

I want everyone to know that.

「人に～してほしい」という意味になる。

私はそれをみんなに知ってもらいたい。

I want to dance.

おど
私は踊りたい。

dance するのは 私

dance するのは 彼

I want him to dance.

おど
私は彼に踊ってもらいたい。

- ③ ポイントはズバリ 2 つ！

【人を表す単語を入れる位置！】 want + 人 + to の順番に要注意！

【代名詞を使う場合の種類！】 使うのは 3 列目！表を思い出して！

…が、…は (主語)	…の	…を、…に (目的語)	…のもの
I	my	me	mine
you	your	you	yours
he	his	him	his
she	her	her	hers
it	its	it	-

④ 同じような使い方を「 tell 」と「 ask 」もセットで覚えよう！

● I'll tell my mother to buy snacks. 「私は母におやつを買うように言うつもりだ。」

⇒ 「tell 人 to～」で「人に～するように 言う・伝える」という意味

※おやつを買うのは「 母 」



● He asked me to help his homework. 「彼は私に宿題を手伝うように頼んだ。」

⇒ 「ask 人 to～」で「人に～するように 頼む・お願いする」という意味

※宿題を手伝うのは「 私 」



Small Practice 次の英文を日本語にしてみよう。ペアでチェック！ Don't write, just say.

1. I want Mr. Aoki to make an easy test.
2. He wanted his mother to understand his feeling.
3. Josh told everyone to think about endangered animals.
4. My homeroom teacher asked us to write the story of our class drama.
5. Our coach told me to wait here for 5 minutes.

Practice 並び替えて、英文を完成させよう。

① 「私は彼にピアノを弾いてほしい。」

(want / to / the piano / I / him / play / .)

I want him to play the piano.

② ★ 「あなたが数学が得意だと知っているのので、答えを教えてください。」

(because / good at / you / tell / I / you're / the answer / math / want / to / I / me / know / .)

I want you to tell me the answer because I know you're good at math.

Activity 吹き出しに適切なセリフを考えてみよう！

日本語訳 わからないところがあれば、参考にしよう。

- メグ： 国際自然保護連合のレッドリストについて聞いたことはある？
カイト： ううん、それは聞いたことがないよ。どんなものなの？
メグ： レッドリストを見れば、絶滅の危機にある動物や鳥、植物などについての情報がわかるよ。
カイト： どんな動物がそのリストには載っているの？
メグ： 例えば、パンダ、チーター、ゴリラとかだね。
カイト： 本当に？それは知らなかったよ。
メグ： 日本の動物や鳥の中にも、このリストに載っているものもいるんだよ。
私はみんなにこのことを知ってほしいんだ。
カイト： 学級新聞として、この記事を書いてみない？
メグ： それはいい考えだね。



